

りょうぜん天蚕の会だより

【第 16 号】



発行責任者 りょうぜん天蚕の会 会長 菅野秀一（電話・FAX 024-586-3030）

【 当会の活動方針 】 霊山の豊かな自然環境を活かし、野蚕である「天蚕」の育成と、その飼育体験交流や独特の風合いをもつ萌葱色の繭・絹糸の新たな加工や商品化による地域特産品の創成をはかり、活力ある地域づくりを推進する。また、会員一丸となって繭の生産、新商品開発に取り組むとともに、小学校等への観察用天蚕配布、県内外天蚕関係者との交流及び展示PR活動等を行う。

春暖の候、皆様には益々ご健勝のことと存じます。平成17年2月に設立した「りょうぜん天蚕の会」はこの度16年目を迎えました。これもひとえに会員皆様の熱心な活動と設立以来、伊達市、伊達市観光物産協会、大日本蚕糸会、福島県関係機関等のご支援の賜と厚く御礼申し上げます。

令和元年度の繭の収穫は山付け10,000粒の実施に対し約4,000個で例年に比し60%でした。飼育樹エゾノキヌヤナギ改植のハウス2棟を休営しましたが、天蚕の天敵である「口太カメムシ」の発生が大きく影響したことで猛暑も影響したものと思われます。自然育成の難しさであり、作業内容に更なる努力が求められます。

当会設立16周年である今年は、会員一同、意を新たにさらなる発展を目指し努力したいと思しますので、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。（会長 菅野秀一）



天蚕 腹部を上にして食事中 間もなく結繭する時期。飼育樹エゾノキヌヤナギの枝葉を支えに天蚕の繭。【ほぼ実物大です】

平成 31 年度総会を開催

3月10日(日) 午後3時より霊山町中川集落センターにおいて会員16名が出席し第15回総会を開催した。菅野会長の挨拶に引き続き伊達市霊山総合支所佐藤三男支所長の祝辞があった。議長に大友靖子さんを選出し、30年度事業報告、一般会計報告並びに31年度事業計画、予算案が全員賛成のもと承認された。来賓に富田蚕種の富田克衛氏、県伊達農業改良普及所依田所長と目黒氏が出席された。総会後は懇親会を行い、今年度の更なる繭生産増に向けて大いに語り合った。



富田氏 佐藤支所長 菅野会長 依田所長 目黒氏 八島事務局長

飼育樹の剪定と改植作業を実施

3月18日(月)～23日(土) 飼育ハウスにおいて9名の会員が参加し、剪定作業を行った。

24日(日)～25日(月) 飼育ハウスの1号棟と6号棟において7名の会員が参加しエゾノキヌヤナギの改植作業を行った。

カミキリムシによる樹株の食害で樹勢の低下が目立ち剪定の際に伐根したところ。耕起、整地、施肥、散水、防草シートを施し、約50cm間隔で剪定枝を植樹した。他のハウスの樹も同様な状況が散見されることから、今後改植を行う予定である。



改植作業の島貫さん、斎藤行應さん

大阪大学教授が再来訪

3月29日(金)大阪大学核物理研究センターの東崎昭弘教授、青井教授、高橋講師と2名の女性研究生が来訪し、菅野会長宅と八島事務局長宅において懇談した。一行は阪大を中心に福島大学、仙台の尚絅学院大学、岐阜大学、高知工芸大学の学生ら飯館村の土壌調査や山林汚染等を研究している。東崎教授は私たち天蚕の会が「卵から布製品に至るまで一貫作業」をしていることに関心を持ち、昨年9月にも来訪している。



岡田さん、長坂さん、青井教授、東崎教授、高橋講師、八島事務局長



八島恭子さんの指導で全員機織りを体験

新動噴で防虫剤散布

3月30日(土)～31日(日) 飼育ハウスにおいて4名の会員が参加し飼育樹(エゾノキヌヤナギ・クヌギ)の防虫剤の散布を行った。カミキリムシによる樹株の食害やマイマイガの幼虫による食葉の害を防止するための重要な作業である。

今年度、伊達市の助成により可動式「噴霧機」(50L貯水タンク)を導入したことから作業効率が一段と向上した。今後は天蚕の生育に整合した散布時期の調整が重要となる。



散布作業の菅野会長

天蚕山付け、ハウスネット掛け

4月20日(土) 会員18名で山付け作業とハウスのネット掛け作業を実施した。女性会員は一袋に10粒入った種を飼育樹(エゾノキヌヤナギ)に付けた。男性会員はハウス全棟のネット掛けを行った。今年は信州大学から種3千粒を分けていただき、5棟に山付けをした。



山付け (安田さん、柳沼佐奈枝さん)



ネット掛け (島貫さん、河田さん)

信州大学の種は早い孵化で生育が期待されていたが、2～3齢ころから害虫の影響からか幼虫がまばらとなったことから、5月7日と29日に再山付けを行った。収穫時期の分散が生じた。

掛田小学校、大石小学校で養蚕指導

6月3日(月)町内小学校の掛田、大石両校は総合学習の一環として「養蚕」に取り組んでいる。田村農協より仕入れた稚蚕を両校に配分して飼育に取り組んだ。

大石小には地域の農家が協力して土曜、日曜も給桑しているが、掛田小においては、桑は八島時男会員の桑畑から八島事務局長が摘んで供給し、担任が車に積んで帰宅してからも給桑するという作業を重ねた。二週間後から営繭し始め、生徒たちの感動を呼んだ。

直ちに高野金助会員の乾燥機にて乾燥し、二学期からの繭工芸品や繰り糸作業に備えた。



八島事務局長『天蚕四方山噺』を講話

6月13日(木)飯坂温泉「山房月の瀬」において、県蚕糸OB会の席において八島事務局長が天蚕の会発足の経緯等について講話した。



県蚕糸OB会で講演する八島事務局長

和紙工場の立場から原料の楮不足は桑園の荒廃によるものと判明したこと、霊山町の遊休桑園300ヘクタールもあることから、その桑園に替わる天蚕育成圃場への提案＝県北地方振興局懸賞小論文入選＝に至り、その発表5年後、柳沼泰衛氏との運命的出会いとなったことなど、和紙と天蚕作品を展示して講演し好評を得た。

霊山こどもの村で天蚕繭工芸

6月16日(日) 霊山こどもの村において恒例となった繭工芸品製作指導を菅野会長はじめ6名で行った。相馬市から80名の団体が来場し、熱心に動植物や想像上の生物製作に取り組んだ。中には幼稚園児と思われる幼い子供が難しい工作に挑戦し苦慮している様子がほほえましかった。

完成した繭工芸品に満足して親子共々笑顔で話が弾んでいるのを見ると指導の甲斐があるというもの。また、天蚕の幼虫3匹を飼育樹に這わせ近くで観察できるよう図った。



蚕糸・絹業提携グループから来訪

7月6日(土) 蚕糸・絹業提携グループ全国連絡協議会の会員である㈱ブル・ドックのプロデューサー田村悠大さんが当会に来訪した。㈱ブル・ドックは販促企画制作とマーケティング戦略や集客戦略を主に展示会、競技会、スクール企画運営などを行っており、田村さんは as navi編集長で各種団体の機関誌やパンフレット等を多数発行している。

この度は「自然な姿」を協議会の新パンフレットに載せたいと館ハウスの天蚕と八島事務局長宅での繭製品を詳細に撮影しておられた。



㈱ブル・ドックの田村さん(左)と八島事務局長

女子大学生繰糸体験に来訪

9月7日(土)宮城県的女子大生と丸森町支援員阿部さんが八島工房を来訪し、繰糸と天蚕繭の紬体験を行った。繰糸した生糸が固着しないうちに携帯ストラップとして製作したので「自分で繰糸した物でストラップが出来るなんて思わなかった！」と喜びを表していた。後日、実家の北九州市からもお礼の手紙が届いた。

天蚕繭の一次収穫作業

7月13日(土) 午前9時半より今年度初の繭収穫作業を行った。会員16名が参加し、収穫とその繭から塵取り作業を行った。第1次の繭収穫は2,750粒で、例年の60%程度であった。

今年は生育状況がまばらであるので2次、3次の収穫に期待したところであるが、昨年度からの猛暑の異常気象により口太カメムシが異常発生し、天蚕幼虫を餌食にしていた様子がハウス内で観察されており、これが減収の大きな要因と思われる。この様子は中川飼育ハウスに限らず、二本松市の鈴木静子会員のハウスでも確認されていた。



繭収穫作業の柳沼佐奈枝さん(左)と岩崎 綾さん(右)



繭の塵取り作業中の天女の皆さん

草津市小学生が繭工芸に取り組む

8月5日(月)りょうぜん子供の村紅彩館において、伊達市の特産品「天蚕繭」を利用したコサージュづくりが開かれた。震災以降、伊達市と他県小学生との交流事業が行われているもので、今年は草津市の小学6年生26名とボランティア大学生5名の計31名が来所した。生徒たちは繭の中から大きな蛹を取り出すたびに「キャーキャー！」と驚き騒ぎながら挑戦していた。繭花の中にもう1つの花を付けたり、花芯が大きく飛び出したり、大人には想像もつかない作品を作っていた。

霊山登山と共に良き思い出づくりに役立ったようである。天蚕の会から川辺、大友、八島夫妻がその指導に当たった。草津市の小学6年生への指導の様子



霊山町文化祭に協賛展示

10月26日(土)～27日(日) 霊山町体育館で恒例の文化祭が開かれ、町文化団体からの依頼があり天蚕製品の展示を行った。菅野会長、八島事務局長、八島時男会員が説明に当たった。

今年は町老人会作品展も同時に開催されたため、連日大勢の来館者が訪れ盛会であった。



当会展示ブースの八島事務局長と八島時男会員



来客に天蚕製品を説明する八島事務局長

天蚕まつりを開催

11月1日(金)～2日(土)掛田街なかサロン「ヨッテミー」で恒例の「天蚕まつり」を開催した。例年阿武隈急行保原駅内で開催していたが伊達市物産協会販売コーナーが撤収されたため。

今年、街なかサロン「ヨッテミー」が開設5周年に当たるため記念事業の一環として会場を提供いただき同時開催となった。「ヨッテミー」スタッフの全面協力をいただき、茶菓や昼食の提供もいただいた。1日(金)は平日であったため来訪客の出足が心配されたが記念品提供の事前ダイレクトメールが功を奏し多数の来訪があった。特に会員の知人達が装身具類を多く求められ、また、野菜・果物の物販も繁盛しマルシェ的效果が顕著に見られたコラが開催となった。



天蚕製品を紹介する八島事務局長と佐藤霊山総合支所長



大盛況の天蚕繭でのコサージュづくり



ネット外し作業

11月10日(日)男子会員8名、女子会員3名が参加してネット外し作業をおこなった。全ハウスが大型ネットに更新したので片側に曳く作業のため効率よく終えることが出来た。

← 引き下ろしの指示をする末永敏 事業部長

東京ふるさと霊山会で展示販売

11月16日(土)東京上野「東天紅」レストランにおいて「東京ふるさと霊山会」が開催され、菅野会長と八島事務局長の2名が参加した。ふるさと霊山から関東地域に住まわれている方々45名、地元それぞれの代表23名が集い交流を深めた。菅野会長は乾杯後のプレゼンテーションにおいて「天蚕の会」の活動と持参した商品を紹介した。参加した会員は故郷の商品として、子供や孫のプレゼントにすると買って買っていた。



振興公社代表理事の八城氏、斎藤氏、商工会佐藤吉彦氏、八島事務局長

保原小学校で繭工芸指導

11月18日(月)保原小学校3年生の総合学習において「繭工芸」を選択した10名の生徒が繭工芸に挑戦した。当会から八島事務局長、八島恭子両名が指導に当たった。家繭をカラフルに染めた物と天蚕繭を配られた生徒達は思い思いの作品づくりに取り組んだ。担任の先生がプリントしていた「ピカチュー」を作った生徒が多かったが「ピエロ」を作った生徒の出来栄が素晴らしかった。



母蛾検査を実施

11月30日(土)9時から中川集落センターにおいて会員14名が参加し母蛾検査を実施した。伝染性病原菌に冒されていないか優良種保存のため重要な作業である。今年の試験献体は85体(昨年98体)。検査の結果、疑わしい物は1体のみであった。



顕微鏡で検査中の八島時男さん、河田明芳さん 検体粉碎中の丹治さん、大山さん、義治さん、鈴木さん、恭子さん

県酪農協同組合婦人部が繭工芸に挑戦

2月13日(木)月舘「花工房」において県酪農協同組合県北支所やまびこ会13名が天蚕繭のコサージュづくりに挑戦した。天蚕の会から川辺会員、八島夫妻の3名がその指導に当たった。



工芸の様子↑ 自作のコサージュを胸に全員でパチリ⇒



上保原小学校で繭工芸を指導



2月26日(水) 上保原小学校の親子体験教室で6年生と父兄あわせて75名が参加し天蚕コサージュ作りに挑戦した。当会から菅野会長、八島事務局長、八島恭子、川辺洋子、大友靖子の5名の会員が指導に当たった。親子共々緑色の繭や色とりどり繭に触れて大いに感激していた。蛹(さなぎ)の出現に「キャー、キャー！」と驚きながらも約2時間楽しくコサージュを作り上げた。

二本松市で天蚕飼育始まる

浪江町天蚕生産者鈴木静子さん(当会会員)が二本松市に避難生活後、昨年、自宅新築と同時に庭に天蚕飼育ハウスを併設すると共に、渋川地区の上田泉次さん(当会新会員)の空き地にハウスを造り、



今年は飼育樹木も成長したので大いに期待された。しかし、春の大雪でハウスが崩落し飼育が危ぶまれつつ再建したが、1回目の山付けはカメムシが侵入した為か幼虫に孵化したものの2齢後に姿が見えず、2回目の山付けを行った。努力の結果、8月初旬に205個の繭を収穫することができた。

二本松市渋川の天蚕飼育ハウス2棟

新会員紹介



上田泉次さん
(二本松市渋川)

アクセサリ一新商品の開発

八島事務局長は繭の表皮の1～2枚のみを剥ぎ、パイプ状につくり、ブローチやイヤリングを開発・製作した。天蚕の萌黄色の繭の特徴が生かされ、ビーズやカラー石との取り合わせ次第で「バラエティーに富んだ装身具」と若者から好評を得ている。

ただ、丸い繭表皮をパイプ状にするには平面成型化のため、多くの手間が掛かるので生産性が悪く、それをコストに加えるには課題が残るようだ。

また、ハイブリッド繰糸作業や山繭100%の繰糸試作業で得た糸を活用した携帯用ストラップも試作した。



剪定作業を終えて

2月24日(月)、29日(土) 二日間にわたり剪定作業を行った。その際、たくさんの取り残し繭があった。およそ1ハウス当たり15から18個もあったので全体で300個を超すものと思われる。

また、剪定に先立ち前年度剪定した枝を焼却処分したところ、積まれた古枝の下にたくさんのネズミの巣が発見された。そのネズミ達が営繭後の好物餌となっていると思われる。

確かに、多くの食害に遭っていた繭も発見されていた。



写真① 取り残し繭



写真② 食害に遭った繭

会員の活動スナップ



4月20日 山付け作業 満開の桜を見ながら、畑の中の特設会場でお茶を楽しむ天男天女の皆さん



3月29日大阪大学教授らの現場視察と機織り体験



3月24日 6号ハウス エゾノキヌヤナギ改植作業 島貫繁さん、斎藤行應さん



3月10日 総会前 天蚕卵の袋詰め作業の天男天女



4月20日山付け作業の太友靖子さん、八島恭子さん



7月13日 繭収穫 斎藤義治さん、斎藤行應さん、菅野保雄さん、八島時男さん、大山よし子さん、丹治純子さん、菅野善正さん



11月1日～2日 天蚕まつり 天蚕製品展示の様子(会場 ヨッテミー)



7月13日 収穫した天蚕繭 岩崎 綾さん



11月1日～2日 大勢の来客 天蚕繭コサージュづくりの様子



自作のコサージュを召した来客の大沼さん、指導の恭子さん



11月30日 母蛾検査 鈴木静子さん、八城しげ子さん、菅野保雄さん、佐藤健治郎さん、奥山俊雄さん

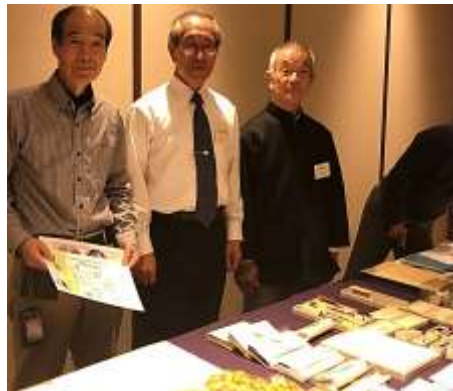


3月24日枝収集作業の大山さん、菅野善正さん、斎藤行應さん 4月20日ネットの固定作業 丹治純子さん、八城しげ子さん



2月26日 上保原小学校 6年生の繭工芸指導の様子

自作の天蚕コサージュを胸に ピース！ステキだ！



11月16日東京ふるさと霊山会で天蚕品展示

商工会佐藤吉彦さん、菅野会長、八島事務局長

7月13日 繭収穫後の塵取り作業（鮮やかな萌黄色した天蚕繭の数々）



天蚕紬糸による機織り作業中の八島恭子さん

3月1日会計監査 高野、八島、菅野(保)、佐藤(健)

トピックス



読者が選ぶ県内十大ニュース

- 1 台風19号が猛威、県内死者33人 (写真●)
- 2 全国新酒鑑評会7年連続日本一 (写真●)
- 3 朝ドラに古閑裕而夫妻の「エール」
- 4 都道府県対抗男子駅伝で本県初優勝 (写真●)
- 5 天皇在位30年式典で知事が国民代表あいさつ
- 6 Jヴィレッジ全面再開
- 7 五輪ソフト、あづま球場で2日間
- 8 東電、第2原発廃炉正式表明
- 9 バド桃田選手が全英OP制覇
- 10 聖火25市町村リレー県内ルート概要発表

福島民友 令和元年12月13日

消費税10%

5年半ぶり引き上げ
軽減税率導入 社会保障支え

駆け込み購入 小売店が混雑

福島民友 令和元年10月11日

ノーベル賞 吉野氏
化学賞 リチウムイオン電池

読売新聞 令和元年10月9日号外



首里城全焼

福島民友 令和元年11月1日

中国感染1万1000人超
新型コロナウイルス 日本「指定」政令施行

国・地域	累計感染者数
中国	13,791
韓国	1,573
台湾	10
香港	16
日本	12
米国	8
フランス	1
ドイツ	1
イタリア	1
スペイン	1
英国	1
ロシア	1
インド	1
ブラジル	1
豪州	1
ニュージーランド	1
フィリピン	1
インドネシア	1
タイ	1
ベトナム	1
カンボジア	1
ラオス	1
ミャンマー	1
モンゴル	1
北朝鮮	1
韓国	1
台湾	1
香港	1
日本	1
米国	1
フランス	1
ドイツ	1
イタリア	1
スペイン	1
英国	1
ロシア	1
インド	1
ブラジル	1
豪州	1
ニュージーランド	1
フィリピン	1
インドネシア	1
タイ	1
ベトナム	1
カンボジア	1
ラオス	1
ミャンマー	1
北朝鮮	1

福島民友 令和2年2月2日

県警ヘリ不時着、横転
7人重軽傷 風にあおられ

福島民友 令和2年2月1日

台風 県内26人死亡
本宮7人、いわき不明3人 15市町村1762

福島民友 令和元年10月16日